

作文授業ガイダンスとしての作文経験調査

中川正弘

0. はじめに

自分が担当するクラスで、受講者の日本語学習歴を学んだ学校や学習期間だけではなく、もっと詳しく、どんな学び方をしたかまで知りたいと思うことがよくある。そこで、日本語能力を数値で計るために行った試験でも、間違い方や文字の書き方など、答案のさまざまな様相から学習状況や学習背景を推測したりする。また、日本語学習に直接関わるものではなく、その遠い背景となっているようなものについてなら、機会があれば直接訊いてみようとする。だが、対象とする学生が少ない場合、本格的な調査のためではなくとも、アンケートの形式を用いるのが簡単だろう。

現在、筆者は作文授業を担当している。ただし、これは一般的な作文授業とは設定が違っている。普通、作文授業は、作文を書かせることを目標とし、その書き方を教える授業となっている。一方、筆者の授業では、作文の書き方についての説明は一切せず、負担を感じないようなテーマで短い作文をまず書いてもらう。そして、その作文と筆者の書き直しとを対照し、詳細に分析することで日本語について考えさせる。つまり、書くことを目標とするのではなく、手段とするような作文授業だ。このように設定したのは、作文練習を行っても、書き終えた後で当然必要なはずの自分の日本語の確認や反省が行われず、「書き捨て」同然になりやすいなど、作文が学習過程全体のなかで有効に位置づけられていないように常々感じていたからである。つまり、受講者には作文を書くことによってどれだけのことを学べるか考えてもらおうとしている。そして、それには各学習者がこれまで作文に関わる経験をどのように、どれぐらい持っているか思い起こしてもらい、もし作文練習がこれまで有効に行われていなかったのなら、その原因が何であるかをよく考えさせることが必要と思えた。学習者の過去の作文経験、これは授業のガイダンスを行う中で振り返ってもらいたいことであると同時に、筆者が教師として知っておきたいものである。

1. 母語における作文経験

日本語の学習には母語やその作文経験も深く関わってくる。日本語で書く作文の内容を母語で考えることは多く、内容を考える力、論理的に組み立てる力は母語によって基礎を置かれているだろうし、母語において一番発揮されるものだろう。ここには各国の学校教

大学で独立した作文授業のある国はほとんどなく、日本と同じく、レポートを時々書かせる国がほとんどだ。だが、日本と違い、小学校、中学校、高校では多くの国で週に1コマか2コマ独立した作文授業があったと答えている。国語の授業の一部として作文を扱い、作文練習だけを目的とした授業のない国は、このアンケートに答えた者たちの13の出身国（中国、韓国、インドネシア、タイ、マレーシア、シンガポール、ニュージーランド、イギリス、アメリカ、ポーランド、ロシア、ブラジル、ペルー）の中で5カ国（韓国、インドネシア、ポーランド、ペルー）であった。独立した作文授業がなければ作文練習が足りなくなるというものでもないだろうが、国語という教科の一部として経験したのと、独立した科目として経験したのとでは、日本語の学習においても作文に対する取り組み方や目標意識に違いが出るのかもしれない。

2. 日本語以外の外国語における作文経験

日本語学習者が日本語で書く作文の内容を日本語以前に学んだ外国語を使って考える可能性は低いだろう。しかし、日本人が母語である日本語の学習で本格的な作文訓練を受けず、外国語の学習、作文練習によって作文に必要な思考法や論理構成法を学ぶこともあるように、日本語を学ぶ前に学んでいた外国語が日本語学習者の総合的な作文力の形成にながしか貢献しているとは思える。

また、日本語以外の外国語を学んだ時に経験した学習法は、日本語とはタイプの違う言語だったとしても、外国語の学習ということで母語とは違い、意識化されやすいはずで、現在の日本語学習にプラス・マイナス取り混ぜてさなざまな影を落としているはずだ。

設問は以下の通りで、母語に関して行ったものにほぼ準じている。

●日本語以外の外国語について

1. これまで日本語以外にどんな外国語を勉強しましたか。

- ・ない ・中国語 ・韓国語 ・インドネシア語 ・タイ語 ・ヒンズー語 ・アラビア語
 - ・英語 ・スペイン語 ・ポルトガル語 ・フランス語 ・ドイツ語 ・ロシア語 ・その他
- [語]

2. あなたが一番よく勉強した外国語は。

[語]

3. その外国語の能力はどれぐらいですか。

- 読む** ・すこしできる ・よくできる ・とてもよくできる
- 書く** ・すこしできる ・よくできる ・とてもよくできる

聞く ・すこしできる ・よくできる ・とてもよくできる
話す ・すこしできる ・よくできる ・とてもよくできる

4. その外国語で文章を書くことになれていますか。

- ・とてもなれている
- ・まあまあなれている
- ・あまりなれていない
- ・まったくなれていない

5. これまでにその外国語でどんなものを書きましたか。

- ・日記 ・手紙 ・感想文 ・エッセイ ・レポート ・論文 ・詩 ・物語 ・小説
- ・説明 ・要約 ・翻訳（母語からその外国語へ） ・会話 ・その他 []

6. あなたがその外国語を勉強した時、作文練習をしましたか。

- ・作文の授業が毎週あり、毎週作文を書かされた。
- ・作文の授業が毎週あり、時々作文を書かされた。
- ・作文の授業が時々あり、作文を書かされた。
- ・作文の授業はなかったが、たまに作文を書かされた。
- ・作文の授業はなく、ほとんど作文を書かされなかった。

7. 毎週、あるいは時々行われた、作文に関する授業では何をしていましたか。

- ・テーマを与える ・内容の考え方を教える ・文章の組立方を教える
- ・教室で作文を書かせる ・家で作文を書かせる
- ・提出した作文を添削して返す ・提出した作文を添削しないで返す
- ・よく書けたものを読む ・下手なものを読む
- ・学生の書いた作文の内容について解説したり、みんなの意見を聞く
- ・学生の書いた作文の言葉づかいについて説明したり、みんなの意見を聞く
- ・添削された作文を暗唱させる

8. その外国語で作文やレポートを書く時、困ったことがありますか。

- ・まったく困らなかった
- ・あまり困らなかった
- ・時々困った
- ・いつも困った

9. その外国語で作文やレポートを書く時、どんなことに困りましたか。

- ・何について書くか ・どのように考えるか ・考えたことをどう並べるか
- ・使える言葉が少ない ・言葉を間違える ・文法を間違える
- ・ 分かりやすく書けない ・上手な文章で書けない ・分量が書けない

・その他 []

10. 先生に添削してもらった作文はどうしましたか。

・一度も読まなかった ・一度は読んだ ・何度も読んだ ・暗記した

11. 先生が直した作文を読んで、どうして書き直されたのか分かりましたか。

・だいたい分かった ・まあまあ分かった ・時々分からなかった
・ほとんど分からなかった

3. 日本語における作文経験

これまでの日本語学習がどのように、どのような配分で行われてきたかは現在の日本語学習に直接関わる問題だ。教師に面と向かっては言いにくいようなもの、また本人にも自覚されにくいようなものでも、学習者の要望が出てくればと思う。

設問は以下の通り。

●日本語について

1. 日本語の能力はどれぐらいですか。

読む ・すこしできる ・よくできる ・とてもよくできる
書く ・すこしできる ・よくできる ・とてもよくできる
聞く ・すこしできる ・よくできる ・とてもよくできる
話す ・すこしできる ・よくできる ・とてもよくできる

7. 日本語で文章を書くことになれていますか。

・とてもなれている ・まあまあなれている
・あまりなれていない ・まったくなれていない

6. これまでに日本語でどんなものを書きましたか。

・日記 ・手紙 ・感想文 ・エッセイ ・レポート ・論文 ・詩 ・物語 ・小説
・説明 ・要約 ・翻訳（母語から日本語へ） ・会話 ・その他 []

2. これまでどれぐらい日本語の作文練習をしましたか。

・作文の授業が毎週あり、毎週作文を書かされた。
・作文の授業が毎週あり、時々作文を書かされた。
・作文の授業が時々あり、作文を書かされた

- ・作文の授業はなかったが、たまに作文を書かされた。
- ・作文の授業はなく、ほとんど作文を書かされなかった。

3. 毎週、あるいは時々行われた、作文に関係する授業では何をしていましたか。

- ・テーマを与える ・内容の考え方を教える ・文章の組立方を教える
- ・教室で作文を書かせる ・家で作文を書かせる
- ・提出した作文を添削して返す ・提出した作文を添削しないで返す
- ・よく書けたものを読む ・下手なものを読む
- ・学生の書いた作文の内容について解説をする
- ・学生の書いた作文の内容について質問をさせたり、意見を言わせる
- ・文法や言葉づかいの間違いを説明する
- ・文法や言葉づかいの間違いについて質問をさせたり、意見を言わせる
- ・言葉づかいや表現について解説する
- ・添削された作文を暗唱させる

8. 日本語で学校の作文やレポートを書く時、困ったことがありますか。

- ・まったく困らなかった ・あまり困らなかった
- ・時々困った ・いつも困った

9. 日本語で学校の作文やレポートを書く時、どんなことに困りましたか。

- ・何について書くか ・どのように考えるか ・考えたことをどう並べるか
- ・使える言葉が少ない・言葉の間違い ・文法の間違い
- ・分かりやすく書けない ・上手な文章で書けない ・分量が書けない
- ・その他 []

6. 先生から返してもらった作文はどうしましたか。

- ・一度も読まなかった ・一度は読んだ ・何度も読んだ ・暗記した

4. 先生が直した作文を読んで、どうして書き直されたのか分かりましたか。

- ・だいたい分かった ・まあまあ分かった ・時々分からなかった
- ・ほとんど分からなかった

いろいろな機会に聞こえてくるものではあったが、専門研究を行いながら日本語を学んでいる学生の要望はやはり、専門のレポート、論文の書き方の練習のようだ。このような要望は知っていながら、受講者の専門分野がまちまちなクラスで日本語を教えてはとて

も対応できるものではないと考え、作文の授業ではごく一般的なテーマを課題としがちだ。ただ、このような学生たちが日本語教育の場で求めているのは日本語で書くレポートや論文の内容に関わるものではなく、自分の行った研究や考察を日本語で表すのに必要な知識だけのことも多いようだ。理系、文系のどのような専門にも共通する日本語のレポート、論文の文体練習はどうすれば可能か、今後の課題とせねばならない。

4. 授業のガイダンスとして

これまで、「作文授業」の設定における問題点を指摘し、「作文」を柱とする授業にどのような可能性があるかを模索してきた²⁾。それは、作文練習が理屈の上では言語の習得に有効で、必要なものだと思われながらも、実際にはただ負担としか感じられなかったり、書いたとしても、それによって上達するとも感じていない者が多いと思え、このように学習者が作文に対して消極的になってしまうのはどうしてか、学習者の能力や意志の問題とばかりは言っていられないと思えたからである。

現在試みている授業は通常の作文授業に取って変わるものというより、その欠落を補うものとして、同時に受講されることが望ましいものだ。先にも述べたように、作文を書くことで学習を前進させるためには、書き終えた後で、その作文に表れた自分自身の日本語がどのようなものか自覚し、文法や語法についての理解の誤りは正さねばならない。そこで、この学習者の日本語を教師が書き直した日本語と比較しながら、その隔たりとなっているもの、つまり誤りの質や原因、またそれ以外にも何が日本人の日本語ではないと感じさせるのかなどの分析と解説を行い、さまざまな言葉の「選び」などに現れる日本文化、日本社会の考察も行う。つまり、言葉を視点として日本語、日本文化を見るのである。書かせる授業ではなく、書いたものを考えさせる、また考える訓練をする授業ということだが、当然こういうものは学習者一人一人に当人の書いた文章で行えることが望ましい。しかし、自分の書いた文章でなくても、自分と同レベルの学習者が書いたものなら、それに対して日本人教師が行う間違いの分析や解説は多くの者に共有されよう。日本語に対する日本人の見方や反応形式を知ることはだれにとっても日本語の理解に役立つはずだからだ。

設問は以下の通り。

●この授業について

1. 自分の使っている日本語がどんな日本語か気になることがありますか。

- ・よく気になる
- ・時々気になる
- ・あまり気にならない
- ・ほとんど気にならない

2. 何が気になりますか。
 - ・発音の間違い ・文法の間違い ・言葉の選び間違い
 - ・日本人の日本語と同じか ・自分の考えが正しく理解されているか
 - ・美しい日本語か ・その他 []

3. あなたの話す日本語がどこかおかしい時、それを聞いた日本人は教えてくれますか。
 - ・ほとんどいつも教えてくれる ・時々教えてくれる
 - ・あまり教えてくれない ・ほとんど教えてくれない

4. あなたが書いた日本語がどこかおかしい時、それを読んだ日本人は教えてくれますか。
 - ・ほとんどいつも教えてくれる ・時々教えてくれる
 - ・あまり教えてくれない ・ほとんど教えてくれない

5. 日本語でどんなものを書く練習がしたいですか。
 - ・日記 ・手紙 ・感想文 ・レポート ・エッセイ ・論文 ・詩 ・物語
 - ・小説 ・説明 ・要約 ・翻訳（外国語から母国語へ） ・会話
 - ・その他 []

6. 自分が書く日本語の文章について何が知りたいですか。
 - ・内容がおもしろいか、おもしろくないか ・内容の組立方がいいかどうか
 - ・言葉の間違いが多いか少ないか ・文章が上手か下手か
 - ・文章が美しいかどうか
 - ・間違っているのはどこか ・どういう間違いか ・どう書けば正しいか
 - ・日本人らしくないのはどこか ・日本人ならどう書くか
 - ・意味が分かりにくいのはどこか ・どう書けば分かりやすいか
 - ・その他 []

7. 日本人の使う日本語についてどんなことが知りたいですか。
 - ・文法規則 ・文法に反する慣用 ・意味の違い ・類義語の使い分け
 - ・現実の生活会話 ・流行語 ・言葉の連想 ・言葉の文化背景
 - ・言葉の出現頻度 ・言葉の使用頻度 ・方言 ・文語と口語の違い
 - ・男女言葉の違い ・年齢による違い ・日本人に多い日本語の間違い
 - ・その他 []

8. 日本語について考えたり、本で調べたりするのは好きですか。
 - ・大好き ・まあまあ好き ・あまり好きではない ・大嫌い

9. 日本語について本や辞書で調べてよく分かりますか。

- ・よく分かる ・まあまあ分かる ・あまり分からない
- ・分からないことが多い

10. 自分の日本語の間違いや日本人らしくない言葉づかいはどうすればなくなると思いますか。

- ・日本人の日本語をたくさん聞いたり読んだりする
- ・下手な日本語、特に外国人の日本語は読んだり、聞いたりしない
- ・自分が使う日本語と日本人の使う日本語を比べる
- ・自分以外の外国人が使う日本語と日本人が使う日本語を比べれる
- ・間違いがどうして間違いなのかを考える
- ・その他 []

11. この授業では、外国人であるあなた方に書いてもらった作文の日本語を、日本人である私が書き直した日本語と比較し、外国人の使う日本語の間違いを分析したり、日本人の使う日本語がどのようなものであるかを解説したり、また日本語に表れる日本人の精神、文化、社会について考察したりします。

受講を希望しますか。

はい/いいえ

ガイダンスを兼ねたこのアンケートの核心となる設問は6・7である。作文を言語学習の中で最大限活用するには、書き終えた自分の作文から何を学べばいいか。また目標である日本語について何を知らうとするのか。この答えを考えてもらうこと自体がガイダンスとなるように意図した。

作文を書かせることを目標として、これに必要なことを講義・解説する授業では、書いた後の作文に関わる解説時間はほとんど出てこない。添削をした（時には添削もせず）作文を返却してしまえば、その添削に何を読みとるか、後は書いた当人の自発的な学習にまかされるのが普通だろう。添削してもらった作文を読み返す者は本当はどれだけのことを知りたいと願っているのか。間違いの訂正以外に潜在的には何を問うことができるのか。6・7の設問の選択項目として用意したもの以外にも知りたいと思うことはまだまだあるのだろうが、一般的な作文授業では添削について書いた者に説明する時間がとれるのはこの内のいくつかでしかないはずだ。

6の「自分が書く日本語の文章について何が知りたいですか」という質問では次のように回答が返ってきた（45名）。

- ・内容がおもしろいか、おもしろくないか・・・14

・内容の組立方がいいかどうか	24
・言葉の間違いが多いか少ないか	25
・文章が上手か下手か	25
・文章が美しいかどうか	18
・間違っているのはどこか	30
・どういう間違いか	29
・どう書けば正しいか	30
・日本人らしくないのはどこか	26
・日本人ならどう書くか	30
・意味が分かりにくいのはどこか	18
・どう書けば分かりやすいか	24
・その他	0

また、7の「日本人の使う日本語についてどんなことが知りたいですか」という質問には次のような回答が返ってきた。

・文法規則	22
・文法に反する慣用	22
・意味の違い	25
・類義語の使い分け	23
・現実の生活会話	31
・流行語	13
・言葉の連想	8
・言葉の文化背景	10
・言葉の出現頻度	7
・言葉の使用頻度	9
・方言	9
・文語と口語の違い	18
・男女言葉の違い	19
・年齢による違い	16
・日本人に多い日本語の間違い	10
・その他	0

この6・7の設問のために用意した項目で誰にも選ばれなかったものはない。正誤に関わる項目は当然多くの者に選ばれているが、感覚的なこと、文体にかかわるようなことに

についてもできれば知りたいと思われているようだ。もし添削をした者に答える用意があれば、添削を返された者はこれだけのことは問おうとするのだろう。ここに用意したもの以外にまだどんなものがあるのか。これを考えなければいけないのは添削を担当する教師だ。そして、ここで確認されたような潜在的な要求については答える方策がさまざまに模索されてよかろう。

5. おわりに

このアンケートでは欄外に二百字程度の自己紹介を書いてもらった。設問に対する回答は学習背景について、こうでもしなければ知り得ない貴重な情報を与えてくれるのだが、受講者が書いた作文ほど多くのことはやはり教えてくれない。話題の選び方、言葉遣い、文字遣い、文法の誤りなど、作文のあらゆる様相が、それを書いた者について語っている。試みたアンケートは統計を取るためのものではなく、受講者一人一人の学習背景を知るためのインタビューに代わるものとしてだった。しかし、教師として知りたいことがこのアンケートに尽きるわけでもない。

(了)

注

- 1) 「…今ではアメリカの州立大学の1年生は、毎週1回、作文を提出することが義務づけられている。学生25名につき一人の作文教師がいて、学生の提出した作文を読み、綴字のまちがいや文法のあやまりを訂正し、短評をつけて返す。これを普通「大学作文（フレッシュマン・コンポジション）」と称する。1年間必修だから、日本式に言えば4単位ということになる。なかには「二年生作文（ソフィモア・イングリッシュ）」とあって、さらに作文教育を延長している大学もある。これは読書教育もかねていて、二年の終わりになると、たいていの学生が1分間に平均300語の速度で本を読むようになっているそうだ。」井上ひさし、『ニホン語日記-36』、週刊文春、94年7月7日号。
- 2) 中川正弘、「作文」を「読む」-「書く」技能の定位と展開、『留学生日本語教育』、第4号、広島大学留学生センター、1992年。
中川正弘、作文の誤りと文体、広島大学留学生センター紀要、第3号、1993年。
中川正弘、作文と解釈、広島大学留学生センター紀要、第4号、1994年。
中川正弘、外国人の日本語、日本人の日本語、『留学生日本語教育』、第6号、広島大学留学生センター、1994年。